

侘び寂び男子

～利休～

平成29年9月



昨年の文化祭

高校三年 財津 真生 [部長]

後輩たちに感謝の気持ちを伝えたいと思います。

化祭ではそれぞれが作つたお茶碗でおもてなしをさせていただいております。

私は昨年文化祭でお客さん
の状態を見て、お菓子やお茶の
用意の指示などを書いていまし
た。最初は自分で本当によかつ
たのかということばかりを考
えていましたが、最終的には何
とかなつたのではないかと思
います。何が言いたいのかとい
うと、一年間部長としてやつて
きましたが乗り切れたのでは
ないかということです。少なく
とも私は、自分にリーダーシッ
プはないと思っていますが、今
年の文化祭に向けて皆で一丸
となつてやつてこれたと感じ
ています。最後になりましたが、
来ていただきの方々、先生方、
先輩方、そして応援してくれた

茶道部の活動について

高校二年 後藤 保明

初釜

高校三年 前田 陽希

茶道部では週に一度外部の

講師の方に作法を教えていた
だき、また、茶道を通して、日
常生活にも使うことができる
礼儀を学ぶことができます。活
動の初めは掛け軸を読み活け
られた花の名前を答えます。お
茶を点てる際に友達がわから
ないときは教え合い美味しい
お茶を点てられるように練習
しています。毎年一回家元見学
や文化祭前にお茶碗作りを行
い、特にお茶碗作りでは、部員
一人一人の個性が出ており、文

私は今年、高校三年生として
清風生活のクライマックスを
迎えると同時に、中学二年生時
より参加している茶道部でも、
最高学年という重要なポジシ
ョンにつくことになりました。
今回はこの記事を通して、「初
釜」という行事のことと皆さん
に伝えたいと思います。まず、
初釜とは年の初め、つまり正月
時に行う茶道の行事であり、普
段のお稽古時とは異なる体験
がたくさんできます。まず、お

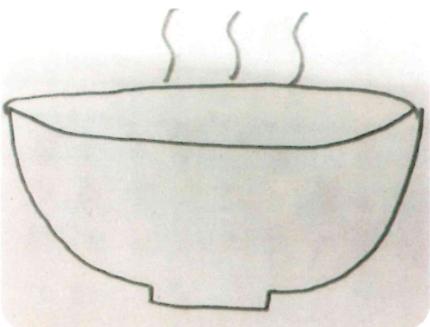
菓子について。この行事の際に
は「はなびらもち」という専用
のお菓子が、専用のお重に入つ
て登場します。これは、ゴボウ
と白味噌餡、ニンジンを餅で包
んだものであり、個人的にはこ
れは好みがわかれると思いま
す。率直に言うと、私は少し苦
手です。次に、お抹茶について。
普段のお稽古時には「薄茶」と
いうものが出来ますが、初釜
のときはそれの倍以上に濃い
「お濃茶」が出されます。これ
はとてもドロドロしており一
人で飲むのは無理なので、全員
で回し飲みします。また普通の
薄茶はお棗（なつめ）という容
器に入っているお抹茶を二杓
入れて「点てる」のですが、お
濃茶の場合はお抹茶を一人三
杓ずつ、計九杓（十杓入れて

「練る」のです。最初はかなり
抵抗がありますが、慣れればお
そらく、美味しく感じると思いま
す。以上、駆け足ではあります
が、初釜という行事につい
ての説明を終わります。高三に
なると同時に清風生活の終わ
りも近づいてきましたが、腕前
はまだまだ未熟ながら、茶道部
の活動に関われたことを光栄
に思います。第一志望の大学に
合格した後も茶道は続けてい
こうと思うので、まだまだ、私
自身と茶道の関係は続いてい
くと思います。また、この部誌
を手に取ったことが茶道の世
界に入るきっかけとなつたの
であれば、本当にうれしい限り
です。

茶道の歴史

高校二年 磯村 飛翔

茶道は日本伝統の茶をふる
まう行為のことだ。また、それ
を基本とした様式と芸道のこ
とを表す。初めて中国から茶の
知識を持ち込んだ書物は唐の
陸羽の書いた「茶經」で八〇四年
に空海と最澄が中国から持
ち帰つたものだが、その時はあ
まり発展しなかつた。茶を飲む
習慣と製法は平安時代に遣唐
使から伝わった。当時、日本人
は茶を嗜好品としてよりも薬
として飲んでいたという。室町
時代に村田珠光がわび茶の源
流となる考え方を説いた。



世界のお茶

高校二年 山本涼太

私は工芸茶というお茶について紹介します。私が工芸茶と出会ったのは横浜の中華街に行つた時でした。偶然入った店で淹れてもらつた際にティー ポット内で花が咲くのに驚きました。湯の中で美しい花が咲くように一玉ずつ丁寧に作成

するのは難しいそうです。長い歴史を持つ花茶という原型はあるものの、工芸茶自体は中国茶の中でも長い歴史はないのです。工芸茶は香り、見た目、味と三拍子揃つた素晴らしいお茶です。一度お試しください。

高校三年 宮崎隼〔副部長〕

私たちちは二〇一七年四月九日に奈良県の西大寺で開催された大茶盛に参加しました。大茶盛は一般的なお茶会のイメージとは全く異なっていて、広い部屋で西大寺にまつわる面白いお話や大茶盛の由来などをお聞きすることができます。私も初めは厳かなお茶会を

想像して緊張していたので、親しみやすい大茶盛の雰囲気に驚かされました。

また、お茶碗がとても大きいことは知っていましたが、その他にも茶筅や茶杓などが大きいことを初めて知りました。大きい茶筅で抹茶を点てている様子はとても迫力があり、見ごたえがありました。大きいお茶碗は想像していた以上に重く、一人で持ち上げて抹茶を頂くのは困難で、お客様の中には数百人でお茶碗を支えて頂かれている方もいらっしゃいました。大茶盛は敷居が高い感じがしますが、実際に参加してみれば大きく印象が変わりました。皆様も機会があれば是非参加されてみてはいかがでしょうか。

家元見学

高校二年 祖父江 嵩

暑さ真っ盛りの八月、私たち茶道部は校外活動の一環として、京都にある表千家の家元見学と茶道に関する資料館を見学しました。

家元では、お点前を拝見し、そ

の鮮やかな所作に感動し、その

後訪れた資料館では、歴史ある貴重な道具類を見学し、茶道というその奥深さに改めて感銘を受けました。

大阪とは違う京都という歴史と風情と伝統が、私が学んでいける茶道の「わび・さび」という極意が生まれ、そして今回、短い時間でしたが、いろいろと学ぶことができ有意義に過ごすことができた一日でした。



家元では狭い造りではあり

ますが、清涼感が出て美しい路地や、静かで小さいわびさびの感じられる茶室が見られました。またお点前を頂くときの前座の人のお話も上手で感動しました。

高校二年 甘利祐樹

高校一年 佐々木 常徳

私が作陶体験をして感じたことは、とても楽しく、また向こうの方のお茶を頂いたりすることができ、かなり貴重な体験をすることができました。



作陶体験

高校一年 池田 遥紀

七月に、作陶体験をさせていただきました。過去に数回体験したこともありましたが、今は今までで一番の仕上がりになつたのではないかと思います。また、同日に立札卓での練習もさせていただきました。部活動では、立札卓での練習は三年生の先輩方がメインなので、とても貴重な体験ができました。



高校二年 中川 基

みなさんは作陶を体験したことがありますか？見ているだけだと簡単そうに見えますが案外難しいです。例えば丸い

形に整える。やってみると手の形にそつてできていくのでところどころに角ができたり、指と指の間に土が入り筋ができるなどしてしまいます。けれどもそんなこと以上にとても楽しいです。土を変幻自在に操れて自分の好みのデザインできます。みなさんも個性があふれた作品をいっぱい作ってください。

茶道部の楽しさ

高校三年 南 裕貴

部活の楽しい点はたくさんあります。その中で、二つの楽しさを紹介します。

まず、お点前を覚えるという楽しさです。最初は正直、難しいですが、練習していくにつれて自然と体が覚えていき、また

高校一年 山下 瑞介

七月に茶道部全体で京都へ作陶体験に行きました。僕は初めて参加したので上手にできることも不安でしたが、自分なりの作品ができてうれしかったです。こんな体験は、茶道部でしかできません！

教えてもらつたり人のお点前を見る事で学ぶことも多くあります。

二つ目は、部員同士の距離が近いことです。何でも聞くことができたり、教え合いをする中で自然と仲が深まつていくといふのは良い雰囲気でできているという実感がわいてきました。アツトホームで毎回楽しい部活ができるというのが、やはり部活において一番大切なことだと思います。

高校三年 仲埜 波希
なんといっても、「茶道」という響きが好きです。「THE・和」という感じもして…。さらに、茶道は日々の生活の行動にも

良い影響を与えてくれ、稽古は自分を見つめ直す機会を与えくれます。そこも好きです！！

高校三年 野原 幹

私は高校三年生から入部しました。こんな時期に入つたのは、元々の第二テニス部を引退したときに以前から清風の茶道部はどんな活動をしている

子を頂くときや立ち振る舞いのときには細かな作法があつたり、季節ごとに花や掛け軸が変わることを知りました。お稽古のときにお点前の間違い点をお互いに指摘し合つたり、休みに三年生だけで集まつて、袴の着付けを教え合つたりしたことは特に印象的です。短い期間ではありましたが、すぐく良い経験になりました。

高校二年 伊藤 優利

道部のみんな、先生方は私を温かく迎え入れてくれました。入部してからは三年生は文化祭で立札を披露するということで、先生は手順が一通りできるよう猛スピードで教えて頂きました。そして、お茶やお菓子を頂くときや立ち振る舞いのときには細かな作法があつたり、季節ごとに花や掛け軸が変わることを知りました。お稽古のときにお点前の間違い点をお互いに指摘し合つたり、休みに三年生だけで集まつて、袴の着付けを教え合つたりしたことは特に印象的です。短い期間ではありましたが、すぐく良い経験になりました。

この部の楽しさとは、つまり和やかな雰囲気の中でお茶について学べることにあると考える。

部に入った日からこれまで、お茶について様々なことを教

えていただいた。それは先生や先輩方、同級生にである。皆は落ち着いた口調で、時にお手本となつてもらい、新たな知識を身に着けお点前の精度を上げていく。そんな長閑な空間を私はとても心地よく、同時にこのような空間でのお稽古を楽しく思う。

今年の文化祭が終わると三年生が引退してしまい、最上級生となる。また、新たな立場でのスタートである。この和やかな雰囲気を守りつつ、より穏やかな空間を作り楽しい部活をしていきたい。

茶道部として心がけていること先輩方、同級生にである。皆は落ち着いた口調で、時にお手本となつてもらい、新たな知識を身に着けお点前の精度を上げていく。そんな長閑な空間を私はとても心地よく、同時にこのような空間でのお稽古を楽しく思う。

度はその方達に恩返しをして、後輩に教える役目を果たしたいと思います。

中学三年 大前 天譽

僕が茶道部員として心がけていることは、茶道部としての自覚をしながら上品っぽく生活することです。そして、千利休の十戒を心がけるようにして生活ができるようになろうと思います。

中学一年 桐井 海舟

僕が茶道部に入ったのは、小さいころに母にお茶を点ててもらつて飲んだりしていて、茶道が好きだったからです。そして、茶道部でたくさんのこと学ぼうと思いました。しかし、入部してすぐは、緊張していく先生や先輩方と話せませんでした。そんな中、中学二年の先輩方が話しかけてくれました。そのころからたくさんの中の話を聞けて、みるみる上達しました。丁寧に説明してくれて、毎日が楽しくなりました。

僕が、中学二年、三年、高校生として上がつて行つた時、一つも間違えないように作法を覚え、どんな方法でも見本になれり先輩になりたいです。また、これから茶道部に入部していく後輩にやさしく教えてあげられるように、今の中二年の先輩のようになりたいです。

中学二年 黒澤 春陽

僕は、茶道部の紹介と茶道部としての取組みを書こうと思います。

僕が茶道部に入部した理由は、茶道に興味があつたのと、和菓子を食べれるというところが大きかつたと思います。体験入部のときから、親切に先輩方が

接してくれた事が印象に残りました。入部して感じたことは、部活でいろいろな経験をさせてくれるということです。たとえば、夏には、お茶碗を自分たちで作れたり、元旦には、初釜で、桜湯は飲めたりと、盛りだくさんです。他にも、行事があるので、入部して後悔することはない！それが茶道部だと思います。

来年に向けて

高校二年 後藤 雄飛

茶道をたしなむのは、将来何につながるのでしょうか。例えれば勉強なら大学受験があり、資格を取得できたりします。運動をすれば、肥満を防ぐことができます。それでは茶道ではどうでしょうか。勉強や運動と違い、目に見える成果はありませんが、私はおもてなしの心だと思います。人と接するとき相手を敬うなど、当たり前のこの奥に茶道の心があると、私は思います。私は茶道をしていてよかったですと思ったことはあまりありません。しかし、将来、社会になつたとき、茶道が生きていくのが楽しみです。

高校一年 畠中 聰馬

来年、僕は全てのお点前を完璧にできるようにし、人を待たせず、そして上出来なお茶を点てられるようになりたいです。そのため、家で自主トレーニングをして、練習量をより多くしようと思います。その先に、茶道の資格を受けようと考えています。それのみならず、勉強と両立して、勉強と茶道、両方ができる人になれるよう、頑張ります。

高校一年 梶谷 亘

～ひとつひとつの意味を～

何事においてもそのひとつひとつに意味があると人はよく言うしよく聞く。それは茶道い。

においても同じある。我が茶道部の小西先生は稽古中に「全部意味があるんです。」と言ふ。そんな先生の話を聞いていると、やはり意味をおろそかにしてはならないのだとつくづく感じる。これは茶道をはじめて間もない私の勝手な自論だが、動作の意味を知らず、分からず

私は今、ひとつひとつの意味を知り、本質を見つけ出すことを茶道部で学んでいる。

に形式的にしてしまうと本当の意味でのもてなす、あるいはもてなされることはできないのではないかと思う。と言うよりかは感じたほうが正確かもしれない。なぜなら

「本当の意味でのもてなす、もてなされること」とはいつたいどうしたことなのかわたしにはまだ分からぬからだ。それをこれから私は学んでいきた